

口述試験の内容について

1. 試験時間は全体を通じて 10 分程度です。

2. 口述試験の進め方は以下の通りです。

① 受験者は、試験委員が日本語で話す内容を受験外国語で通訳します。

試験委員：これから私が日本語で読み上げる内容について、受験外国語で通訳してください。
配付した用紙と筆記用具を用いてメモをとっても結構です。

(例題) 浅草は、江戸時代から演劇でにぎわう歓楽街でした。浅草寺は、雷門にぶら下がる大きな提灯が有名ですが、仲見世と呼ばれる商店街と共に象徴的な観光地点となっています。

② 受験者は、その場で配付される日本語によりテーマが書かれた 3 つのカードから、30 秒以内にテーマを 1 つ選択し、外国語でプレゼンテーションを行います。

試験委員 (日本語で)：配付されたカードの中からテーマを 1 つ選択し、そのテーマについて受験外国語で 2 分程度でお話してください。

(例題) 1. 京都の地理・地形・気候
2. 日本の首都
3. 日本の農業

③ 試験委員は、②の内容について受験外国語で質問を行い、受験者は受験外国語で回答します。

3. 2①の試験委員が日本語で話す内容、2②の受験者がプレゼンテーションを行うテーマとは、通訳案内士試験ガイドラインにある、日本の地理、歴史並びに産業・経済・政治及び文化についての主要な事柄のうち外国人旅客の関心の強いものを題材とします。

※上記の出題例は、あくまでも参考としての例です。

4. 試験委員は 2 名 (原則として、受験外国語母語話者 1 名、日本語母語話者 1 名) です。

以上